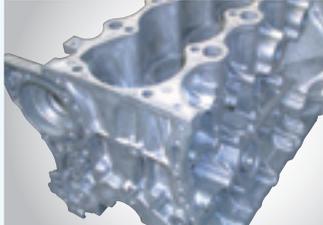




# Research, Service, Technology を追求していきます

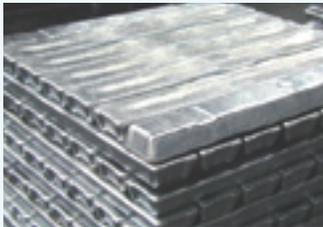
アーレスティは、R・S・T〈Research〉〈Service〉〈Technology〉という三つの言葉の統合です。Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

## アーレスティの事業



### ダイカスト

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を生産しています。



### アルミニウム合金地金

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を生産しています。



### 完成品

コンピュータールーム、クリーンルームなどにおける最新のニーズにお応えする製品を開発・提供しています。

## Contents

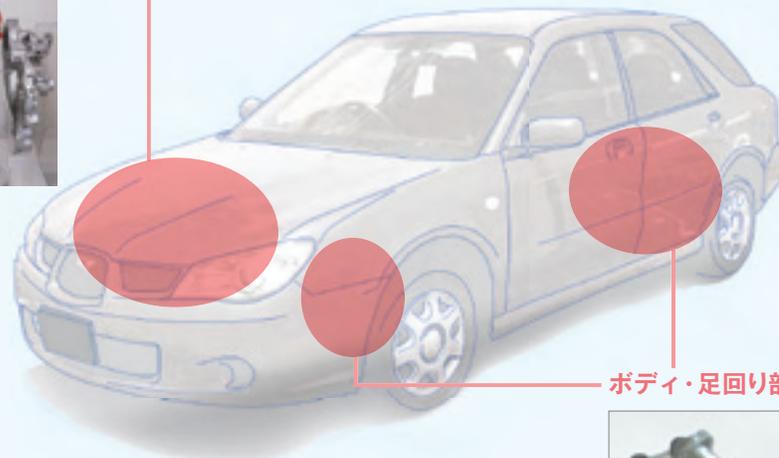
トピックス	3	グローバル展開	9
連結財務ハイライト	4	事業の概況	11
株主・投資家の皆様へ	5	企業の社会的責任	15
本部長メッセージ	7	企業情報／株式情報	18

## 私たちは、ダイカストのリーディングカンパニーです。

アーレスティは、自動車のエンジン、トランスミッションなどを中心に、様々なダイカスト製品を製造しています。近年では、自動車の軽量化ニーズに伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化を積極的に推進しています。

### パワートレイン

- エンジン
- トランスミッション



### ボディ・足回り部品



### あゆみ

- |   |  |
|---|--|
| <p>1938年 6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立<br/>アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、<br/>アルミニウム砂型鋳物の製造を開始</p> <p>1943年 11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、<br/>アルミニウム砂型鋳物の製造を開始</p> <p>1960年 3月 ● 株式会社日本精密金型製作所(現：株式会社<br/>アーレスティ ダイモールド浜松)を設立<br/>7月 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始</p> <p>1961年 10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所<br/>第2部に上場</p> <p>1962年 4月 ● 東海精工株式会社(現：株式会社アーレスティ<br/>プリテック)設立</p> <p>1963年 3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場<br/>(現：豊橋工場)操業開始</p> <p>1971年 3月 ● 栃木フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ<br/>栃木)を設立</p> <p>1972年 3月 ● 株式会社ダイテック(現：株式会社アーレスティ<br/>ダイモールド栃木)を設立</p> <p>1976年 9月 ● 熊本フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ<br/>熊本)を設立</p> <p>1981年 3月 ● 株式会社ダイテック熊本工場(現：株式会社<br/>アーレスティ ダイモールド熊本)操業開始</p> <p>1984年 7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始<br/>8月 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始</p> <p>1985年 5月 ● バスカル販売株式会社(現：株式会社アーレスティ<br/>テクノサービス)を設立</p> | <p>1988年 6月 ● Ahresty Wilmington Corporationを設立<br/>10月 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレ<br/>スティに変更</p> <p>1989年 10月 ● 株式会社アーレスティ'89年度デミング賞<br/>実施賞(中小企業賞)受賞</p> <p>1997年 2月 ● Thai Ahresty Die Co., Ltd.を設立<br/>3月 株式会社アーレスティISO9001(建材)<br/>認証取得<br/>株式会社アーレスティISO9002(ダイカスト・<br/>アルミニウム)認証取得</p> <p>2001年 3月 ● 株式会社アーレスティISO14001認証取得</p> <p>2002年 7月 ● Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.を設立</p> <p>2003年 8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立<br/>10月 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アーレ<br/>スティが合併<br/>11月 第20回素形材産業技術表彰にて「経済産業大臣<br/>賞」受賞</p> <p>2005年 3月 ● 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司を設立<br/>4月 バスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会<br/>社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に<br/>変更<br/>6月 本社を東京都中野区中央に移転</p> <p>2006年 6月 ● Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.を設立<br/>9月 テクニカルセンター開設</p> <p>2007年 1月 ● Ahresty India Private Limitedを設立</p> |
|---|--|

## 広州地区における加工工場の新設と金型製作工場の移転・拡張

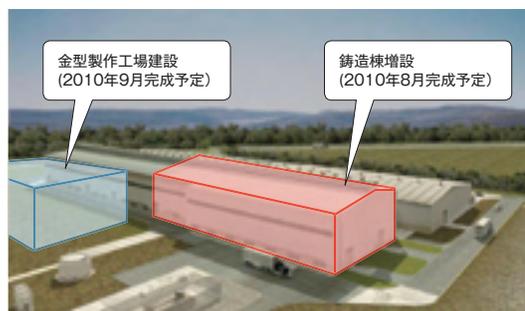
広州阿雷斯提汽车配件有限公司（広州アーレスティ）は、工場建屋の増築および設備の拡充により現行の敷地が建築限度一杯となったため、新たに近隣の用地に加工工場として第二工場を建設し、2009年11月より稼動開始しました。これにより広州アーレスティは、国内主要工場に匹敵するダイカスト生産拠点となります。また、広州アーレスティの敷地内にあった阿雷斯提精密模具（広州）有限公司（ダイカスト金型製造）も需要拡大に備え永和地区内に新工場を建設し2010年7月に移転します。



完成した阿雷斯提精密模具（広州）有限公司の新工場

## アーレスティメヒカーナの増築と金型工場新設

Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.（アーレスティメヒカーナ）は、新規受注への対応とコスト競争力強化のため第四期工事として鑄造棟と倉庫棟を増築します。さらに金型製作を現地化するため金型製造工場を新設しています。



## 中国での第二拠点設立

アジア市場におけるダイカスト事業の強化・拡大を図るため、中国において第二番目の拠点を設立することとなりました。現在、日本・米国・メキシコ・中国・インドにダイカストの製造販売拠点を持ち、日系自動車メーカー及び部品メーカーを中心としたグローバルでのダイカスト需要に対応しておりますが、中国市場の旺盛な需要に柔軟に対応し顧客に貢献するとともに、当社のグローバル競争力を一層強化していきます。

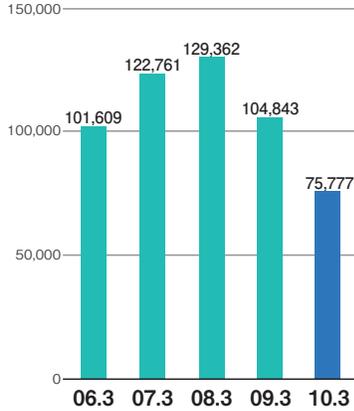
### 概要

合肥阿雷斯提汽车配件有限公司（仮称）  
中華人民共和国  
安徽省合肥市経済技術開発区  
資本金 20億円（予定）  
事業内容 ダイカスト製品の製造、販売  
生産開始 2011年7月（予定）

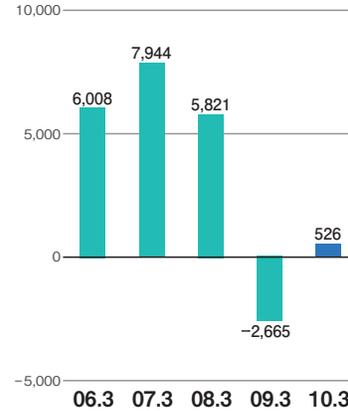


# 連結財務ハイライト

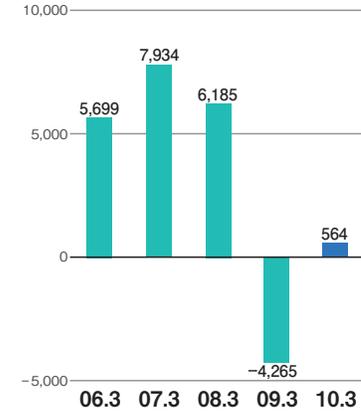
売上高  
(百万円)



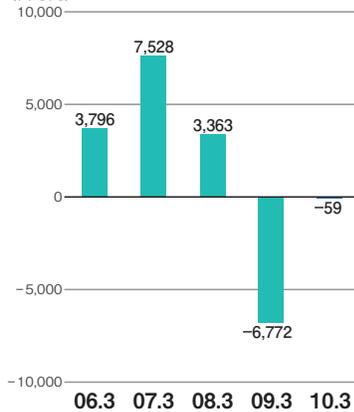
営業利益  
(百万円)



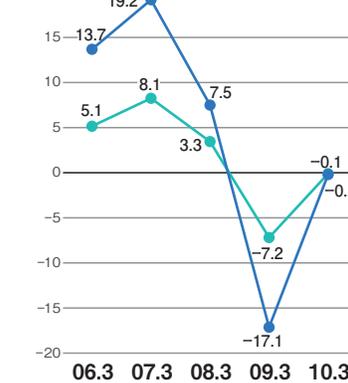
経常利益  
(百万円)



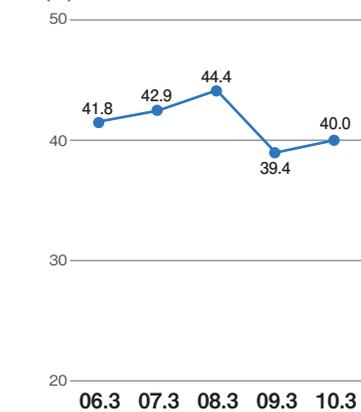
当期純利益  
(百万円)



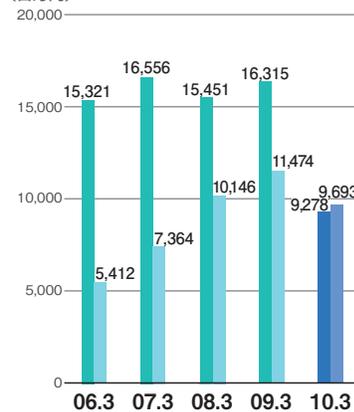
自己資本当期純利益率(ROE)  
総資産当期純利益率(ROA)



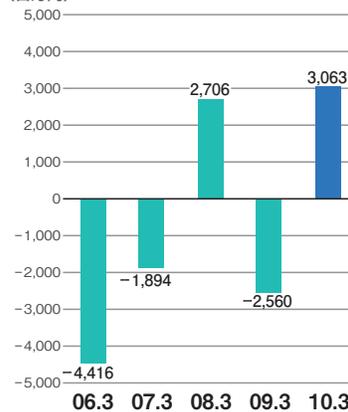
自己資本比率  
(%)



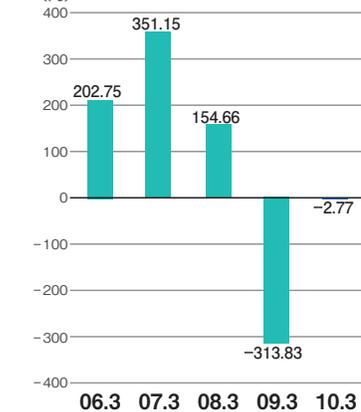
設備投資額<sup>※1</sup> / 減価償却費<sup>※1</sup>  
(百万円)



フリー・キャッシュ・フロー<sup>※2</sup>  
(百万円)



1株当たり当期純利益  
(円)



※1 金額は金型を含みます。 ※2 フリー・キャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー - 設備投資額 (金型を除く)



## お客様に信頼されるグローバルパートナーを目指して

2009年度は経済低迷下でのスタートでした。各国の経済刺激策などもあり下期からは徐々に生産量が増加してきましたが、国内ではピークであった2007年度に比べると7割強というレベルに過ぎません。このような環境下、2008年度より実施した緊急対策などの効果もありようやく下期から営業黒字化を達成する事ができました。皆様のご理解とご支援に心より御礼申し上げます。しかし、一方では需要構造の変化が大きく進んでいます。欧米など先進国中心であった自動車需要が低迷し、中国やインドなど新興国での需要が大きく拡大しています。これら新興国では小型車需要が中心であり、また価格も欧米市場とは大きく異なっています。また、厳しいグローバル競争の中で自動車メーカー各社は、生産拠点の新興国展開を加速しています。自動車部品に対するグローバル価格競争力への要求も大変高まっています。リーマン

ショックを経て、自動車産業の需要構造が変化してきています。

アールスティは、このような環境の変化に対応するため国内への設備投資を最低限に抑える一方で中国、メキシコ、インドへの投資を積極的に行いました。その結果、中国の生産量は下期にほぼ倍増し、メキシコでは2010年度に2009年度比およそ1.9倍、2008年度下期に生産を開始したインドにおいても2010年度は2009年度の倍以上となる予定です。

今後も、国内需要の拡大は大きく望めない状況が続くものと思われませんが、旺盛な需要の期待できる海外拠点における展開を更に推進してまいります。

また、グローバルに発展するアールスティグループの推進力の原点はものづくりです。国内を中心とした生産の全工

程における品質の造りこみを徹底し、効率よく良いものを造る力を高めてまいります。

そのために、2009年に策定した経済危機下での経営計画を発展的に2010年からの三カ年計画として変更しております。①品質基盤強化、②人材の育成、③グローバル業務標準の整備、④リスクマネジメントが柱となっています。世界経済の安定成長にはまだ時間を要するものと思われれますが、三カ年計画に基づく基盤整備を推進し、更にお客様に信頼いただけるグローバルパートナーとして発展

を目指してまいります。

引き続き皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
最高執行責任者 高橋 新

## 10-12中期経営計画

### 「更なる飛躍に向けて品質を中心とした基盤強化」

当社グループの長期的な経営の方向性を示した「10年ビジョン」をベースとしつつ、グローバル需要拡大に対応すべく中国・メキシコを中心とした海外ダイカスト事業の拡大、国内需要の縮小を見据えた効率的な生産体制の確立を進めると共に、更なる飛躍に向けて品質を中心とした基盤強化の方針を「10123カ年アーレスティ方針」として掲げ、経営資源を最大限に活用し、全従業員が積極的に活動し、計画達成を目指して全力で取り組みます。

#### ① グローバル飛躍のための品質基盤強化

「顧客ニーズの先を行く企業」として、お客様の信頼と期待に応える品質の製品を提供するため、設計から出荷までの各工程において、不良を作らない・流さないための管理技術・固有技術を高める施策を展開し、品質システムの向上、顧客満足度の向上を目指し、すべてのプロセスで品質を自己完結とする基盤強化を進めます。

#### ② プロが育つ環境づくりと自律的成長

グローバルでの競争激化が予想される厳しい環境下において、社員一人ひとりがプロとしてアーレスティウェイを実践し企業成長を支える人材に成長できる環境づくりと品質教育を始めとした能力クラス別専門教育などの施策を進めます。

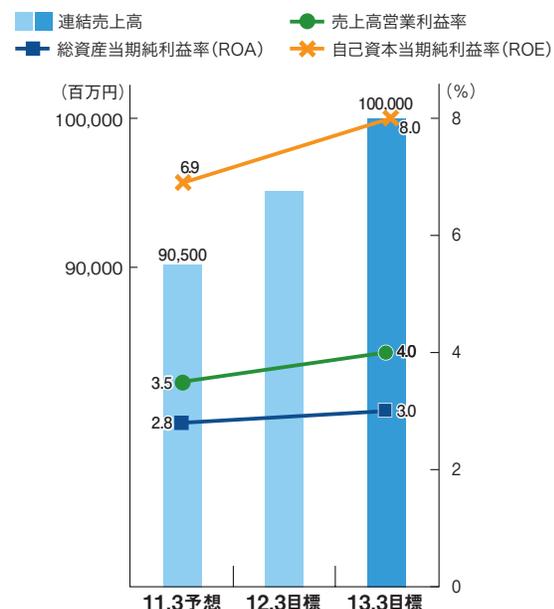
#### ③ グローバル業務標準の整備

効率の良い組織と機能の実現のため、グローバル標準の整備等の施策を進めます。

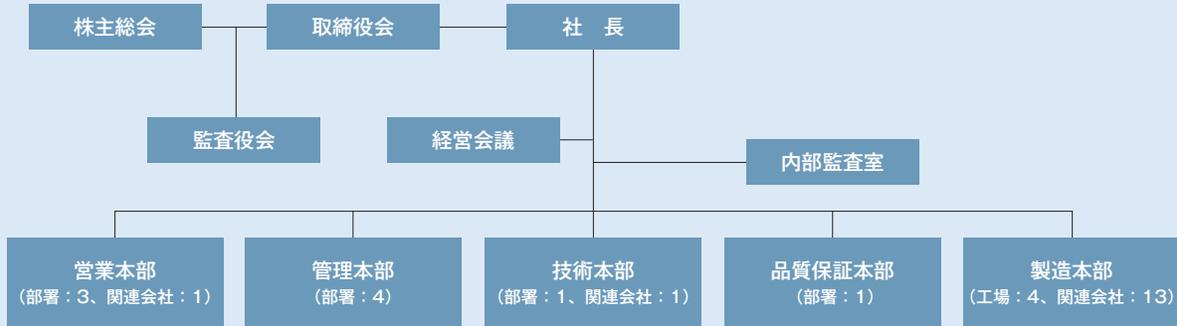
#### ④ リスクマネジメント

事業継続マネジメントの構築と事業継続計画の策定・推進を進めます。

#### ■ 10-12中期経営計画の目標値



アーレスティグループは、営業本部、管理本部、技術本部、品質保証本部、製造本部の5本体制を採用しています。



## 「グローバル飛躍のための品質基盤強化」をかけた、後工程不良の半減を実現できるものづくり現場を追求



取締役常務執行役員  
製造本部長 林 禎一

2008年度後半からの国内生産量の大幅減を受け、環境変化に強いリーンな生産体制を構築し、乗り切りを図りました。一方、海外工場では数多くの新規受注製品の立ち上げを行い、計画に沿った事業拡大を進めてきました。しかし、急激なグローバル展開の中で製品を作り込むための生産前活動や現地従業員の教育面で問題が浮かび上がり、2010年度以降取り組むべき課題となりました。2009年度は、このような状況の中でアーレスティとしての「も

のづくり品質」で改善が見られず大きな課題となりました。この為、2010年度からの3カ年方針として「グローバル飛躍のための品質基盤強化」をかけた「後工程をお客様と考へ、後工程不良を半減する」を実現できるものづくり現場を追求します。同時に、海外工場に対しては個々の製品立ち上げ支援にとどまらず、日常業務におけるシステムの定着と現地従業員への教育を行い、生産現場における体質強化を図っていきます。

## グローバルでの飛躍を期し、人財育成、標準化の推進、財務体質の強化、リスクマネジメントで強固な事業基盤を確立

2009年度は大幅な需要減に応じた総経費の削減を推進し、キャッシュフローの悪化に対応するためグループ全体の設備投資は大幅に見直し削減しましたが、今後旺盛な需要が見込まれる海外については回復に応じて前向きな投資を進めました。同時に、グループ内における標準化の推進とグローバル人財の育成、財務に係る内部統制の充実、間接業務の効率向上を図るなどの諸施策の展開を行ないましたが、赤字脱却のための対応を最優先にしたため、

取締役常務執行役員  
管理本部長 古屋 茂

それぞれの展開には力強さが欠けたものの、課題ははっきりとしました。

2010年度はリーマンショック後急速に展開しつつある自動車産業のグローバル化に対応し、3カ年計画の初年度として、もの造りの基盤となる全職位での人財の育成を目指した教育体系の確立と推進、グローバル標準化の組織的な推進、変化に対応したリスクマネジメントの推進、さらに財務体質の強化を図ってまいります。



## すべてのプロセスで品質を中心とした基盤の強化を推進し、 グローバル企業として飛躍

取締役執行役員  
品質保証本部長 石丸 博

この4月より品質保証本部長に就任いたしました。私は、2010年4月までの6年半中国広州に駐在しており、中国経済の発展を肌で感じてきました。金融危機以降、世界経済は回復しつつあるものの、日本経済、北米経済には弱さを感じられます。一方、中国経済は政府の積極的な経済政策により過熱気味とを感じるほどの成長を果たし、弊社広州工場も2009年度の売上が、対前年比1.8倍と急激に成長しました。しかし、この急激な拡大に対して、もの

づくりの基本となる人の育成、生産工程の安定化が追いつかず、重大な品質問題を発生させてしまいました。そのような背景から2010年から2012年を、海外拠点を含めた品質基盤強化の期間とし、品質システムの向上、顧客満足度の向上を目指し、すべてのプロセスで品質を中心とした基盤強化を進めます。2010年をグローバル企業として飛躍するための一歩を踏み出す年としたいと思います。



## 海外技術者の育成とHEV、EVなどの成長分野の 技術・製品開発に注力

執行役員  
技術本部長 三中西 信治



2009年度の当部門は、“グローバル対応”に追われた一年でした。具体的には図面、帳票類の英語併記の見直し、規格のグローバル対応のための調整と英語化、補足資料の現地言語化（英、中、墨）、検索システムの非日本語化（英文、記号、図）、技術者の教育カリキュラム、教育資料の現地言語化等の各種基本整備を行いました。また、技術開発についてはより実現性の高いテーマに集中し力を注ぎました。2010年度も引き続き“グローバル強化”

を進めていきますが、海外技術者の教育と能力向上が重要な課題であると考えています。2008年、2009年度と“冬の時代”であった技術開発にも春の兆しを感じられます。技術開発として今後伸びていくであろうHEV、EVといった新しい芽の成長に合わせ必要な機能、部品の整理と技術、製品開発を進めていきます。

## ダイカスト事業をコアとし、グローバルでお客様に信頼され 貢献できるトップ企業を目指す

執行役員  
営業本部長 金田 尚之

2009年度は販売面においても非常に厳しい一年でしたが、各国政府の自動車需要喚起政策等が功を奏し、下期にはわずかながら回復の兆しを感じることができました。しかし、自動車販売回復の牽引役を果たしたスクラップインセンティブも2009年度末で終了した国が多く、わが国においては2010年上半期にて、世界一の自動車需要国となった中国においても2010年末には終了します。当社にとって、まさしくここからが正念場です。成長を続ける新興

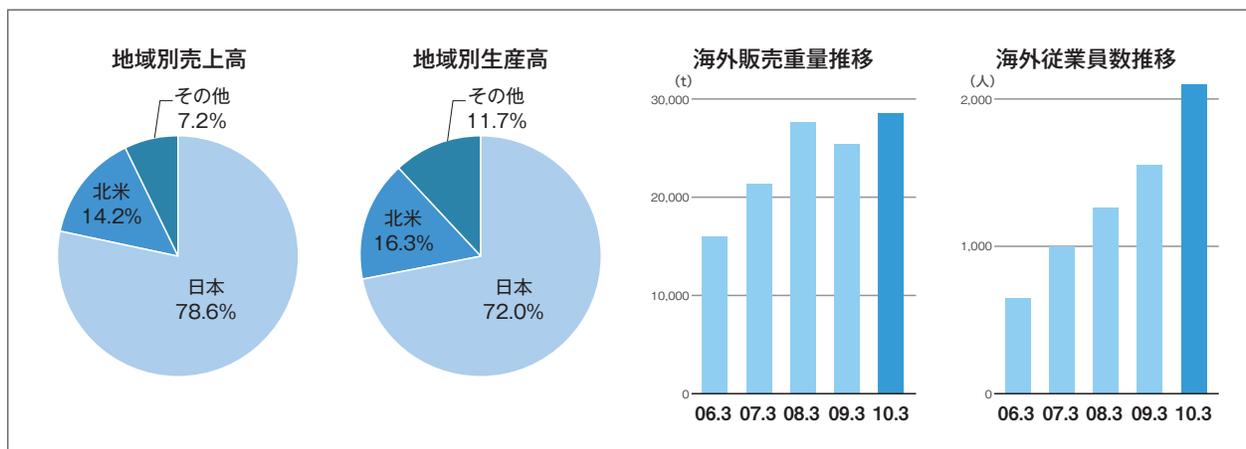
国市場の拡大を見込み自動車メーカー各社は、新工場建設や生産性向上のための設備投資を再開しています。環境規制の厳格化等による先進国市場の変化に対応するため、電気自動車やハイブリッド車など将来市場への布石も打っています。アーレスティは「ダイカスト事業をコアとしグローバルでお客様に信頼され貢献できるトップ企業になる」を目標に、ニーズを確実に捉えグローバルプレイヤーとしての活動を進めていきます。



## 世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています

より早く効率的にお客様に製品を安定供給するために、アーレスティは積極的に海外展開を推進しています。アメリカ オハイオ州ウィルミントンに次ぎ、中国広州、メキシコ、インドにもダイカスト製造工場を設立し、順調に生産量を拡大しています。これまで培ってきた技術とノウハウをそ

のまま活かし、高品質な製品をグローバルで製造・販売しています。また、タイ、広州の金型拠点も含め、材料・金型・ダイカストなどすべての事業において相互補完体制を構築し、グローバルかつグループ・ワイドでの全体最適の実現を目指しています。





●Ahresty Wilmington Corporation

1989年から北米の拠点として機能。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,500トン。

2627 S.South Street, Wilmington, Ohio 45177, U.S.A.

●広州阿雷斯提汽車配件有限公司

2004年度に操業開始。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,500トン。

中華人民共和国広東省広州経済技術開発区永和経済区新豊路7号



●Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

2007年度操業開始。米国のAhresty Wilmington Corporationとの生産補完により、ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,000トン。

Calle Industria Automotriz #20  
Complejo de Naves Industriales la Zacatecana  
Guadalupe, Zacatecas C.P.98600

●Ahresty India Private Limited

2008年度操業開始。海外第4の拠点としてダイカスト製品製造、機械加工を担っています。月産能力は300トン。

Plot No. 194, Sector 4, Phase-II Growth Centre, Bawal, Rewari, Haryana, India



国内主要拠点



東松山工場  
〒355-0812  
埼玉県比企郡滑川町大字都25-27  
TEL.0493-56-4421



熊谷工場  
〒360-8543  
埼玉県熊谷市御稜ヶ原284-11  
TEL.048-533-5161



浜松工場  
〒433-8520  
静岡県浜松市中区小豆餅4-14-1  
TEL.053-436-2111



豊橋工場  
〒441-3153  
愛知県豊橋市二川町字東向山80  
TEL.0532-41-0511



株式会社アーレスティ山形  
〒992-0832  
山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥乙65  
TEL.0238-85-5233



株式会社アーレスティ栃木  
〒321-0215  
栃木県下都賀郡壬生町大字壬生乙4060  
TEL.0282-82-5111



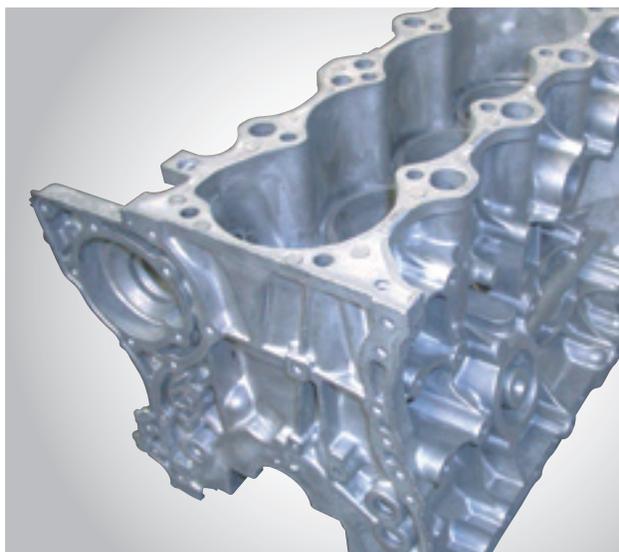
株式会社アーレスティ熊本  
〒869-0521  
熊本県宇城市松橋町浦川内36  
TEL.0964-33-3111



テクニカルセンター  
〒441-3114  
愛知県豊橋市三弥町中原1-2  
TEL.0532-65-2170

## ダイカスト

### 他社に先駆けて新技術を開発 ダイカスト業界でトップレベルの信頼を獲得



アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるように、さらなる技術革新を目指していきます。

#### 主要なダイカスト製品

アーレスティが生産するダイカスト製品の7割は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

- アルミダイカスト製品
    - ・エンジン用
    - ・トランスミッション用
    - ・足回り部品 など
  - マグネシウムダイカスト製品
  - 金型鋳物製品(グラビティーダイカスト)
- その他
- ダイカスト用金型
  - ダイカスト周辺設備
  - 中古ダイカストマシン再生販売

#### ダイカスト製品の特徴

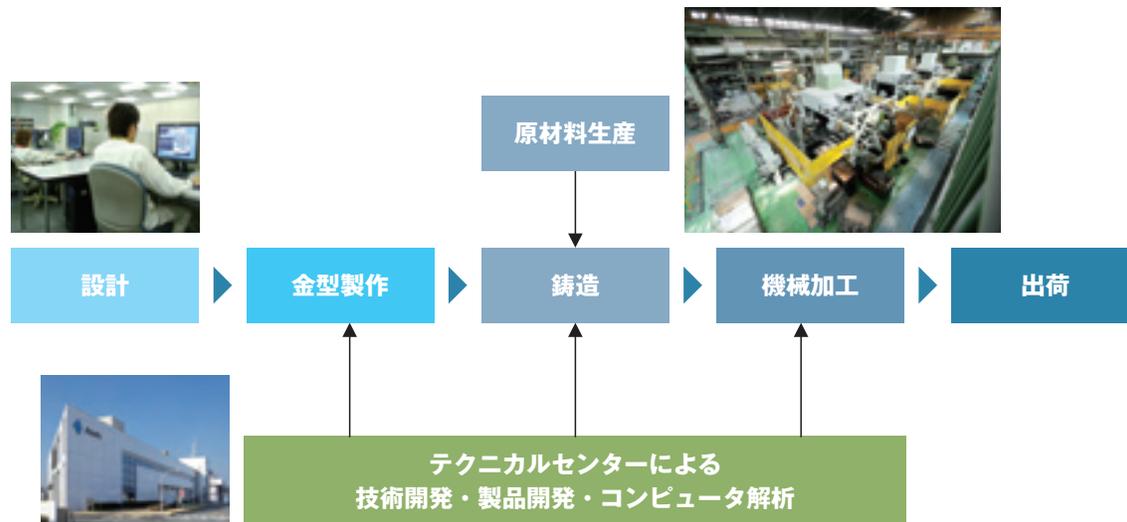
ダイカストのダイ(Die)は金型、キャスト(Cast)は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。

ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さと寸法精度に優れており鋳肌が美しいことです。

表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

## アーレスティのダイカスト生産体制

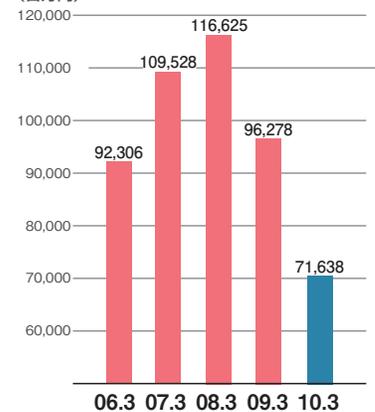
原材料生産から金型製作、鋳造、機械加工までの一気通貫生産体制で、お客様のあらゆるニーズにお応えしています。



## 今期の業績報告

ダイカスト事業においては、各国政府の自動車購入支援策等の影響により、主要顧客である自動車メーカーの販売減少に歯止めがかかり、ダイカスト需要は緩やかに回復しつつあります。新興国市場では、内需を中心とした旺盛な需要により自動車生産台数が増加しており、当社における受注も増加しました。一方、日本を含む先進国市場では、受注は回復傾向にあるものの、依然として低水準で推移したことにより、売上高は71,638百万円（前年同期比25.6%減）となりました。収益面においては、原価低減活動、設備投資の抑制、また受注に見合った人員体制の見直し等の効果もあり、営業利益は608百万円（前年同期は営業損失2,825百万円）となりました。

売上高推移  
(百万円)



## 来期への展望

国内においては、少子高齢化などに伴う国内自動車販売の減少、為替リスク回避などに伴う海外自動車生産の増加などにより、国内ダイカスト需要は横這いまたは縮小するものと予想されます。

中長期的には、新興国を中心とした自動車需要の増加、先進国における需要回復、軽量化によるアルミダイカスト採用増によりグローバルでのダイカスト需要は拡大していくものと見込まれます。

## アルミニウム合金地金

### 業界トップクラスの設備とノウハウで、 多様な材料から高品質の製品を生産



アーレスティ熊谷工場は、1958年、業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場に認定され、1997年には、改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として、全国で初めて通産省から認定を受けました。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなど、多様な原料をもとに機械的性質に優れたアルミニウム合金地金を生産しています。アーレスティが持つ最新の設備、卓越したリサイクルのノウハウによって、工業用地金として活用されています。アルミニウムインゴットの月産能力は3,000トン。日本各地へと出荷され、高い信頼を得ています。

#### 今期の業績報告

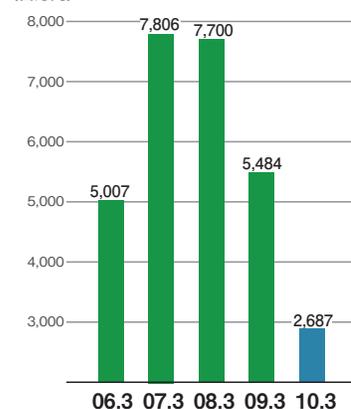
アルミニウム事業においては、景気低迷によるアルミ地金の需要減と地金市況急落の影響等により、売上高は2,687百万円（前年同期比51.0%減）となりました。また、収益面においては、在庫削減や生産体制の見直しを図りましたが、年初での損失額を挽回することが出来ず、営業損失は49百万円（前年同期は営業損失88百万円）となりました。

#### 来期への展望

当事業においては、販売量は昨年後半から堅調に推移しており、栃木や山形といった社内グループ工場の生産増もあって、上期は前年同期比で120%前後を想定しております。但し、販売価格につきましては、価格競争が激しくなっていることから、採算面で厳しい状況に置かれることが予想されます。下期以降につきましては、エコカー減税・補助金制度

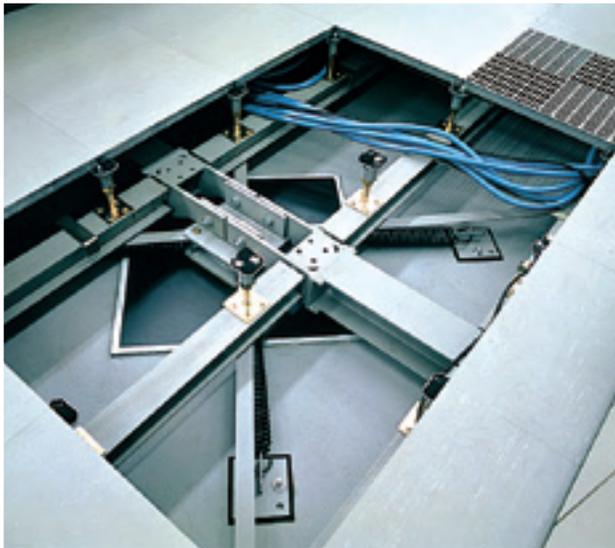
終了の影響から自動車関連での需要減はある程度避けられず、当部門の販売量としても前年比横這いもしくは若干減を想定すべき状況にあると言わざるを得ません。以上内容から、当部門におきましては、引き続き生産性向上や業務効率改善活動に尽力し、収益改善を図るべく対応してまいります。

売上高推移  
(百万円)



## 完成品

### 各方面で導入が進むフリーアクセスフロア時代のニーズに応じて次々と新製品を開発



1962年、アーレスティは日本で最初のアルミニウムダイカスト製のフリーアクセスフロアパネル「モバフロア」を開発しました。フリーアクセスフロアとは、配線・配管を床下に納める二重床システムのことです。一般オフィスや病院などに幅広く利用されていますが、当社では特に半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンター、コンピュータールーム用フロアパネルに注力しています。

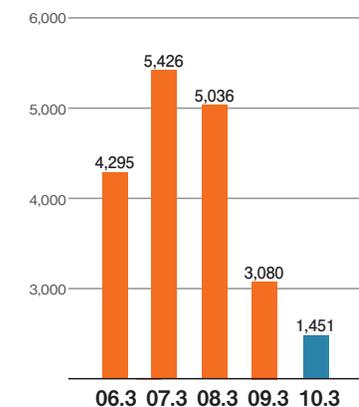
#### 今期の業績報告

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業の設備投資の中止または延期の影響を大きく受けたことにより売上高は1,451百万円（前年同期比52.9%減）となりました。収益面においては、経費の圧縮による販売費の削減に努めましたが、売上高減少の影響が大きく、営業損失は30百万円（前年同期は営業利益221百万円）となりました。

#### 来期への展望

クラウドコンピューティングの普及に伴うデータセンター建設への投資は昨年同様堅調に推移するものと予想されます。一方、国内クリーンルーム市場において先行きの不透明感が拭えず、一部の企業を除いて設備投資には依然慎重さが伺えます。反面、中国でのテレビ向けを中心とした液晶

売上高推移  
(百万円)



ディスプレイ工場や東南アジアでの半導体関連部品工場への投資は上向いており有望な市場へと成長していることから、来期はアジアを中心とした市場への販売を強化・推進していきたいと思えます。

## 環境負荷をできるかぎり減らす努力を重ね、 「環境にやさしい企業」を目指しています

アーレスティでは、美しい地球環境を守るために、私たちが持つ技術の応用、環境に配慮した製品づくりなどの面から、一步一步環境保全活動を続けています。原料からつくる場合の約3%のエネルギーで再生できるアルミニウムは「リサイクルの優等生」と呼ばれ、自動車の軽量化を通してCO<sub>2</sub>削減に貢献するなど、環境にや

さしい性質を持った金属です。

私たちは循環型社会を推進するリサイクル事業と、廃棄物ゼロ活動や省エネ・省資源、LCA(Life Cycle Assessment)などに積極的に取り組むことによって「環境にやさしい企業」の実現を目指しています。

### ISO14001 認証取得

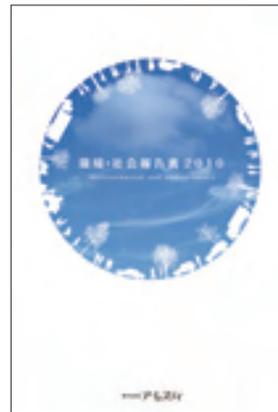


下記の事業所等で  
ISO14001:2004 認証  
を取得し、環境保全に貢  
献しています。

#### ISO14001:2004 認証取得

本社、浜松工場、東松山工場、熊谷工場、豊橋工場、  
テクニカルセンター、  
株式会社アーレスティ栃木、  
株式会社アーレスティ熊本、  
株式会社アーレスティ山形

### 環境・社会報告書2010



アーレスティでは、毎年、環境・社会報告書を発行しています。事業活動を通じた環境への取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう努めています。

### エコアクション21



エコアクション21  
認証・登録番号 0003747

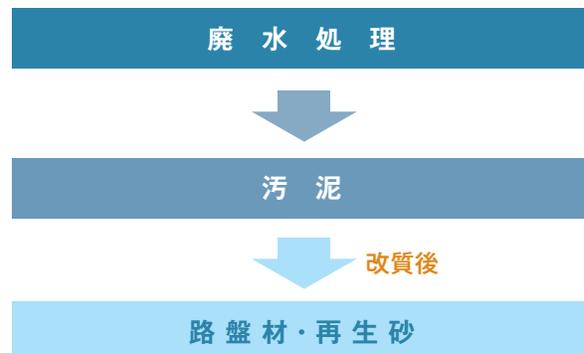
環境マネジメントの仕組みを未導入のグループ会社は、環境への取り組みを拡大するため、ISO14001 と比べると比較的導入が容易なエコアクション 21 の導入を進めています。

0003747  
株式会社アーレスティダイモールド浜松  
0003769  
株式会社アーレスティダイモールド栃木  
0003791  
株式会社アーレスティダイモールド熊本  
0003801  
株式会社アーレスティテクノサービス  
本社・浜松事業所

### 環境保全への配慮

廃棄物ゼロ工場を目指し、廃棄物再資源化に取り組んでいます。従来埋め立て処分されていた汚泥を、路盤材や再生砂にリサイクルできるようにしたことが一例です。

リサイクル一例



## 社会に貢献していく企業であるために… そのための努力を絶えることなく続けていきます

アーレスティでは、全従業員が社会貢献の重要性を認識し積極的に諸活動に参画する企業風土を構築するため、従業員の社会貢献活動を支援しています。工場や営業所周辺の美化活動や近隣河川のクリーン活動、間伐や植栽等の森林整備を行う里山ボランティアや森づくり活動の企画推進の他、従業員が社外団体で福祉活動や献血などに

対しても、これらを行った社員に対しアーレスティエコポイントを付与し、表彰しています。

私たちは企業市民として積極的に社会貢献活動に参加し、地域社会との交流を通して地域の活性化に協力していきます。



近隣河川のクリーン活動への参加（アーレスティテクノサービス）



アーレスティの森づくり活動（関東地区）



工場見学の受け入れ（熊谷工場）



老人ホームでの福祉ボランティア（アーレスティ山形）



営業所周辺の清掃活動（厚木営業所）



本社周辺の清掃活動



里山づくりボランティア（豊橋工場）



里山づくりボランティア（アーレスティ栃木）

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、顧客・株主／投資家・従業員・取引先・社会という「すべてのステークホルダーから信頼される企業」を目指すためにも、企業価値の継続的な向上が重要であることを認識し「競争力の強化」「透明性の高い健全な

経営」の観点より、コーポレート・ガバナンスの充実を図りながら経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築するべく推進してまいります。

## コンプライアンス

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、「コンプライアンス基本方針」を制定し、役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

また、コンプライアンス委員会事務局を設置し、企業活動を行うにあたって適用される法令をはじめ、企業倫理、社内規定を遵守する体制を強化しています。

### コンプライアンス基本方針

- ① 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- ② 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- ③ 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- ④ 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- ⑤ 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- ⑥ 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- ⑦ 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- ⑧ 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動をします。
- ⑨ 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動をします。
- ⑩ 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。



## アーレスティグループ行動規範

日常の業務遂行において遵守すべき基本的事項を定めた「アーレスティグループ行動規範」を制定しています。

- ① 法令等の遵守（規範の趣旨・遵守の責任に関する規定）
- ② 顧客・取引先との関係（自由競争と公正な取引等に関する規定）
- ③ 株主・投資家との関係（企業情報、インサイダー取引等に関する規定）
- ④ 従業員との関係（人権尊重、プライバシーの保護等に関する規定）
- ⑤ 会社財産・情報の管理（企業秘密、知的財産等に関する規定）
- ⑥ 社会との関係（寄付行為、政治献金等に関する規定）
- ⑦ 実施要領について

## 企業情報

### 会社概要 (2010年3月31日現在)

商号：株式会社アーレステイ  
設立：1943年11月2日

資本金：51億1,759万円  
従業員数：【連結】4,473名 【単独】995名

### 役員

#### ■取締役および監査役の氏名(2010年6月23日現在)

代表取締役社長 最高執行責任者	高橋 新	取締役 常務執行役員	古屋 茂	常勤監査役	熊木 勉
取締役 専務執行役員	小木 旭	取締役 執行役員	石丸 博	常勤監査役	見目 康夫
取締役 常務執行役員	林 禎一	社外取締役	宮内 忠一	社外監査役	早乙女 唯夫
				社外監査役	志藤 昭彦

## 株式情報 (2010年3月31日現在)

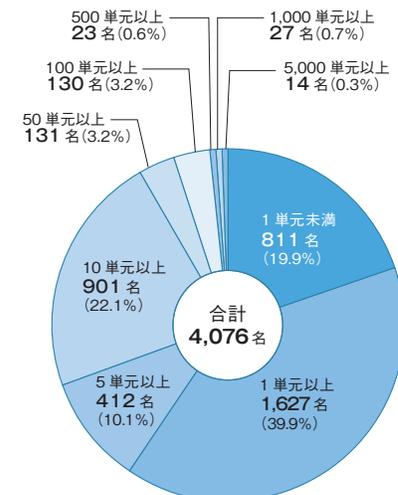
### 株式数および株主数

会社が発行する株式の総数：60,000,000株  
発行済株式総数：21,778,220株  
株主数：4,076名

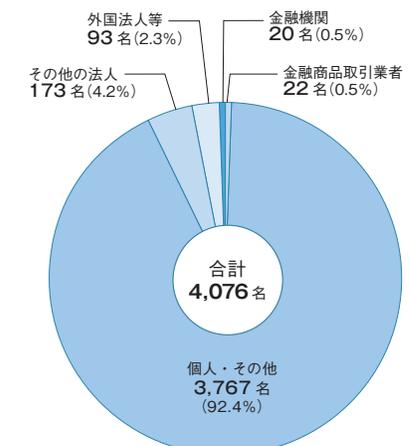
### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
高橋 新	915
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	860
株式会社三菱東京UFJ銀行	765
本田技研工業株式会社	672
日本軽金属株式会社	657
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	638
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	618
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA HONG KONG BRANCH - CLIENT ACCOUNT	597
ザバンクオブニューヨークジャスティック ノントリーティアアカウント	589
スズキ株式会社	565

### 所有株数別株主分布



### 所有者別株主分布





〒164-0011  
東京都中野区中央 1-38-1  
住友中野坂上ビル 11F  
TEL.03-5332-6001  
FAX.03-5332-6037  
URL.<http://www.ahresty.co.jp>